



## 一人ひとりを大切に... 一人ひとりを大切にすることを

徳島県人権教育研究協議会

事務局長 坪井次郎さん

「おはよう」  
 「校長先生、おはようございます」  
 「今日も元気かー」  
 「はい」  
 「よう来たなあ。今日もがんばれよ！」  
 「調子どうな？」  
 「大丈夫です」  
 私的一天は、元気に学校へ登校してくる生徒を迎え入れる校門から始まります。

しかし、元気に登校してくる生徒ばかりではありません。中には、寝不足で不機嫌な生徒もいます。

「おはよう」  
 「今日元気ないなー」  
 「ちよつと寝不足で...」  
 「ようし、今日も一日がんばるぞ」と思つて登校する生徒、逆に「今日は体調が悪くて眠いなあ」夕べ、親と...。さまざまな生徒が登校してきます。

10年ほど前から行ってきたこの活動は、生徒の様子(体調)や態度が発見できる大切な場であり、一人ひとり生活スタイルの違う生徒に寄り添い関わっていく大切な取組でした。

2014年3月末の退職時、生徒から次のような手紙をもらいました。

校長先生へ  
 毎朝、声をかけてくれてありがとうございます。ありがとうございました。

校長先生の「おはよう」「がんばれよ！」は、私の一日一日の「力」となりました。いつか私も友達や周りの人にさりげなく言葉をかけたり、困っている人に力を貸せる人になりたいと思います。

また、どこかでお会いできることを願っています。

体に気をつけて、元気でいてください。

阿南第二中学校生 A子

この生徒とは2年間、学校生活とともにしました。心優しい生徒に出会えたことに感謝し、これからも一人でも多くこのような生徒が育つてくれればと願っています。

教員生活最後となった阿南第二中学校の生徒は純朴で、学習活動や部活動にも熱心です。また、阿南市教育委員会の指定を受け、2年間、人権教育について研究を進めていました。

教育目標は、「豊かな心と、人間力を養い、たくましく生き抜く生徒の育成」であり、重点施策として、

- ①豊かな心の育成
- ②命を大切にする教育の徹底
- ③確かな学力の定着
- ④特別支援教育の充実
- ⑤キャリア教育の充実
- ⑥部活動の充実

を掲げ、地域に開かれ、地域とともに歩み、地域に信頼される学校として日々活動に取り組んでいます。その一例を紹介します。

**一、人権講話**

講師 教育集会所所長 柿本清さん

講演会では、「大切なことは、人を信じること、人を敬うこと、つまり年上の人を尊敬し、年下の人を慈しみ、仲間を大切にしていくということ。また、差別とは、『弱い者いじめ』で、弱い者をいじめてなんになる。皆さんには、心の大きな人間になってほしい。そして、人権教育

とは、みんなが支え合う社会を作るために生き方を学ぶことである。人と人をつなぎ、人を動かすことが大切であり、それは自分をアピールするのではなく、人を立てることである」と、お話をいただきました。

### 二、生徒の成長の姿

地域の人々の講演会や体験的な学習で、教室での授業だけでは得られないものを養うことができました。それは、感想やレポートからも伺えます。生徒は、自分を見つめ、考え、気づき、新たな課題を見だし、また、活動を通して周りの人々の思いを感じ取ることができ、心も成長してきました。教職員は生徒自身が学校生活や家庭生活の中で学んだことをどう生かすか、思いを巡らせています。

現在は、徳島県人権教育研究協議会で、差別をなくしていく人権教育の仕事に携わっています。生徒とともに学んだ「一人ひとりを大切にすることを」を生かしていきたいと思つています。

終わりにになりましたが、人生の出会い、それまでにいくつものきつかけが積み重なって作り出されます。これまでの教職38年間の「出会い」も、これからの「出会い」もいつまでも大切にしていきたいと思つています。

問い合わせは 人権・男女参画課  
 (☎22-3094)へ